

実績報告書

日本財団 ご担当者様

報告日付：2022年7月1日

事業ID：2021000397

事業名：長野県における「子ども第三の居場所」

コミュニティモデルの開設・運営助成

団体名：伊那まちBASE

担当者：戸枝 智子

TEL：0265-76-7627

<事業の実施状況>

1. 居場所の運営状況

① 週5日 月～金 時間 15：00～18：00

子どもの利用数 11月～1月（1か月間の利用児童数）

	小学生	合計	中学生	高校生	合計
2021年11	4年生2名・5年生2名	4名	2名	—	6名 (高校生—)
12	1年生2名・3年生3名 4年生4名・5年生2名	11名		49名	11名 (高校生49名)
2022年1	6年生10名	10名		43名	10名 (高校生43名)
2月	なし	0	なし	36名	(高校生36名)
3月	1年15名・2年18名・3年3名 4年9名・5年11名・6年10名	66名	7名	61名	73名 (高校生61人)
4月	1年25名・2年5名・3年1名 4年1名・5年1名	33名	1名	83名	34名 (高校生83名)
5月	1年13名・2年2名・3年4名 4年1名	20名	なし	68名	20名 (幼児23名、高校生68名)

② 食事提供について

- 子どもの時間（15：00～18：00）飲み物、おやつを提供
- 春休み企画の期間中3回、キッズ食堂として昼食を提供した。（子ども無料、大人300円以上）
- 夕食の提供なし 必要な家庭には提供できるよう準備中

③ 相談について

現在4件・・・南信子ども・若者サポートネットとの連携1件

- 1月に「伊那市こども相談室」と今後の連携について協議。徒歩圏内にある伊那小の児童を利用対象者と捉え、今後の展開を考えることになった。また不登校やひきこもりの小・中学生の保護者などからの問い合わせ時に、居場所の一つとして同施設を「こども相談室」から紹介を

してもらおうよう依頼した。

- 3月の春休み企画の案内チラシを見て、海外から伊那市に移住してきた母子がこどもの居場所について知りたいということで訪れた。

5月中旬に、児童の母親から電話があり、学習の状況が住んでいた国と違うことから精神的に大変な状況になっているので、サポートしてほしいと依頼があった。6月から、伊那まちBASEの子どもの時間で学習支援をスタートさせることになった。

④ 高校生の居場所・ユーススタッフの取り組み

- 子ども第三の居場所の住民となった高校生たちが伊那まちBASEの建築中から棚板のDIYや中古の厨房機器の汚れ取りや運び込み等々、地元の6校の高校生が関わってくれた。オープン後も子ども食堂（かぞく食堂）に積極的にボランティア参加をしてくれた。
- 12月のクリスマスイベントを皮切りに、チャリティーラーメン、地域の方々との交流、春休みイベント等の実行委員として企画、運営を担ってくれた。
- 高校生たちの活動は、様々な広がりを持ち始めている。春休み企画が大成功をおさめたことにより更に主体的な関りが促進され、オープンから6か月経過した現在では、高校生たちはユーススタッフとして、かぞく食堂やカレー大作戦（子ども食堂）、小学生たちとすごろくやボードゲームと一緒に遊んだり、スライム作りをしたり、学習支援をしたり商店街のイベントを手伝ったりと活動の幅も広がっている。また、地域の方々との交流も深まっている。

⑤ 来年度の居場所づくりのためのアンケート調査

春休み企画に参加した子どもたちにアンケート調査を実施した。

伊那まちキッズBASE どんな居場所にしたいかアンケート結果	
工作、折り紙	9
ボードゲーム	9
お菓子作り	9
プログラミング	6
映画会	5
宿題、勉強	3
お誕生日会	2
国際交流	2
読書	2
放送局音楽紹介	2
まちを探検する	1
トーク（おしゃべり）	1
英語で遊ぼう	1
放送局まちに出てインタビュー	1

**伊那まちキッズBASE どんな居場所にしたいかな？**

平日 15:00～18:00に伊那まちBASE内に

小学生～高校生まで安心して過ごせる居場所「<sup>ベース</sup>きッズBASE」が誕生しました。

家庭でも、学校でも、学習でもない「伊那まちきッズBASE」ならではのプログラムを企画して、子どもたちに提供していきたいと思えます。

居場所の住人である子どもたちの思いや希望をきいて参考にさせていただきたくので下記のアンケートにお答えください。よろしくお願ひします。

NPO法人伊那まちBASE  
子ども・若者チーム

.....

**やりたいこと3つに○で囲んでください。**

★あなたの学年を教えてください。（小学校 年・中学校 年）

お菓子作り

工作・折り紙

プログラミング

まちを探検する 英語であそぼう

ボードゲーム

野外活動（イベントとして） 読書 勉強

トーク（テーマを決めて話すとかワークショップ）

映画会（ドキュメンタリーとか名作映画とか楽しいアニメなど）

地域の人に来てもらってお話をきく（動物、昆虫、歴史、マンガ）

お誕生日会・・・その月に誕生日の人たちのお祝いをする

国際交流・・・他の県とか外国の人たちと交流する

宿題

【その他 自由にかいてください。】

## その他の意見

- ・高校生が小学生に学習支援や、一緒に体験活動をする機会を作る。
- ・プログラミング講座、英会話、国際交流等を小学生~高校生で学ぶ。
- ・地域のお年寄りからスマホの使い方講習会の希望がある。高校生に講師になってもらう。
- ・土日にも子どもの居場所を希望するご家庭がある。

## 2. 関係機関との連携

### 〈行政〉

- 伊那市子どもの未来応援隊に「伊那まち BASE (子若チーム)」として登録した。市が提示している「応援メニュー」のうち、子どもの居場所づくり、配食、場所の提供に対する協力ができる旨を記載して11月29日に市役所保健福祉部子育て支援課へ提出済み。
- 上述の子どもの未来応援隊関連で、子ども第三の居場所時間(子どもの時間)に提供できるお菓子などを地元菓子店の協力を得て定期的に入手できるよう、フードバンクを市から委託されている伊那市社会福祉協議会と連携を図る。
- 12月1日 市の「子ども相談室」の担当者が5名、施設見学を実施。その際、「子どもの時間」利用者や施設内の飲食スペース利用の子ども用に菓子パン30個の寄付あり。

### 〈学校〉

- 12月1日 地元の学校(伊那小学校、中学校)に施設案内や連携依頼のため訪問。「みんなのクリスマス」のちらしを全生徒へ配布承諾された。その後、「春休み企画」「子ども放送局」のちらし配布もしていただいた。
- 12月18日 地元の小学生が母親と来場。学校の「総合学習」の一環として生け花を練習中のため、当施設にて花を生け、展示したいと依頼あり。生け花展には、保護者の方々も来てくださり交流することができた。展示後、子どもたちから感謝状が届き、施設内に掲示した。

### 【伊那小学校長、教頭との懇談】

- ① 小・中学校は、下校中の寄り道を禁止している
- ② 子ども同士で学区を超えて出歩くことの禁止
- ③ 学童保育の時間が15:00~18:00となっているため、学童が必要な子どもたちは、学童に通っている。

現在は、伊那まち BASE を積極的に児童たちに勧めることはできないが、今後、伊那まち BASE の存在が地域に根付いていく過程で、伊那小の特色である総合学習の一環として、子どもたちが主体的に伊那まち BASE での体験活動等を希望するようであれば、学校としても大いに活用をさせていきたい。

## 3. 運営機関の工夫

- 定期的子若(子ども若者)チームミーティングを実施し、子ども第三の居場所時間の利用状況や活動内容の共有、特別イベントの打合せなどを行う。
- 必要に応じて子若(子ども若者)チーム関連の課題を話し合う会議を設ける。

- 伊那市においても新型コロナウイルスの感染拡大傾向があるため、運営委員同士の情報共有を頻繁かつ密に行い、利用者や運営側の安全と健康を守りつつ運営を努めている。
- 子どもの時間の空間を子どもが入りやすい場となるように、子どもの出入り口をコモンスペースのドアからにして、一般の方は、自動ドアからにわかる。
- 子どもの時間になったら、のぼりを子どもの時間とわかるようなものに差し替える。
- 一般客と子どもスペースを分けるようにパーテーションで区切る。

#### 4. 課題

- 徒歩圏内にある伊那小の児童を対象に、こどもの時間の利用者増加のための仕掛け作り。
- 居場所（伊那まち BASE）の周知活動をする。
- 市内の小、中学校に対する施設、教育委員会と連携深め、居場所が必要と思われる家庭への声掛けと情報の共有
- ニーズの確認（日曜日の居場所要望あり）
- 子ども第3の居場所のパンフレット作成

#### 5. 現状

- 子どもの時間の対象者は、小学生から高校生となっている。スタート時は、高校生たちが過ごす居場所として定着させつつ、高校生がユーススタッフとして、居場所の運営の担い手として活躍してもらえるように対話を重ねてきた。現在では、スタッフとして必要不可欠な存在となっている。
- 新型コロナの影響は大きく、人が集まりすぎないように配慮しつつ感染予防に努めながら居場所活動をしている。
- 年明けに伊那市子育て相談室に子ども・若者スタッフ3名でうかがい、どんな連携についての懇談を持った。親が勤めている小学生の家庭の場合、学童保育に通っているが、そこは有料であるので、伊那まち BASE が無料で利用できるということから、無料なら伊那まち BASE に行かせたいと考えるご家庭がたくさん出てきた場合、受け入れができるのかと問われました。
- 学童保育としての機能を持たせるには、スペース的にも周辺の状況的にも難しいだろうということは共通認識でした。学童に対して、親からは「宿題をさせてほしい」という強い要望があるとのこと。私個人としては、子どもたちに豊かな放課後を提供したいと願っているのですがそこにギャップを感じました。子どもにとって本当に大切なこととは何なのかまず大人が学び合う必要があるように思います。
- 子育て相談室で個別に対応している様々なご家庭で伊那まち BASE が合っていると思われる子どもの保護者には是非紹介させてほしいと言っていた。また、伊那小の学童保育での延長保育をしているご家庭を対象に夕食を提供できないか検討している。
- 「子どもの時間 GW 特別企画 プラレールで遊ぼう」に参加した保護者が5月の「子どもの時間」カレンダーの内容について興味を示し「子どもの時間」の利用に関心を持った様子だった。
- コロナ禍でも少人数で安心して遊べる場所があることに感謝の気持ちを口にしてくれる保護者が多数いた。

- イベントの帰り際にプレゼントとして配った指人形折り紙が好評だった(頻繁に伊那まち BASE を利用している地元高校生が作ってくれた)
- 金曜日は、9:00~15:00 まで伊那まち BASE にて通信制高校の生徒の居場所として活用することになった。15:00~18:00 まで子どもの時間、その後の時間で、必要としているご家庭を対象に夕食提供を実施する企画し、リハーサルを実施(2回)

完成写真



左上 コモンスペース・入口  
 左下 入口 電子黒板  
 中央上 コミュニティスペース  
 右上 ラボ 菓子工房  
 右下 キッチン 厨房  
 中央下 オープニング  
 右下 黒板アート





1月8日、9日 蒼八ラーメン チャリティーラーメン会



伊那小6年生 生け花



感謝状

## 地域交流 コースター作り



### 2月

- ・長野県全体が蔓延防止等措置下であり、特にイベントや平日の企画はできずに2月が終わった。

### 3月

・3月18日～30日に小学生を対象に春休みイベントを企画し実施。発起人は、伊那まちBASEに定期的に来ている高校生。クッキー作り、DIYワークショップ、読み聞かせ・工作、英語で遊ぼう、折り紙で共同制作、子ども放送局、楽しくお勉強の7つの活動を準備し、事前予約で実施。(活動カレンダーは添付参照) 感染予防しながら、毎日、ユーススタッフ(高校生)が手作りお菓子を提供した(クッキー作りの他に)。

- ・高校生 延べ50人(実人数6名)

### 【3月18日～3月30 伊那まちBASE 春休み企画 の記録】

英語であそぼう



### 学習支援



おやつタイム・・・高校生の手作りおやつや、スタッフが作った絵本の中に出てくるおやつを毎回食べました。子ども食堂も2回実施しました。

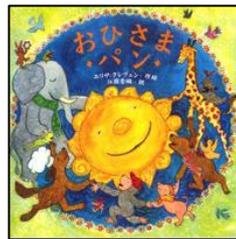


### 手づくりおやつ提供

子どもたちに提供するおやつ作りを担当してくれる高校生、スタッフが毎回、絵本の中に出てくるおやつを作ってくれました。



『ぐりとぐら』『おひさまパン』『ジンジャーブレッド』等々、絵本を読んだ後に、絵本に登場するおやつが登場し、子どもたちから歓声が上がりました。



### 看板づくり





看板完成⇒



クッキー作り・・・4人一組になってクッキーを作りました。



読み聞かせ・・・地域の読み聞かせの会の方が楽しいお話会を開いてくれました。高校生も読み手を務めてくれました。



子ども放送局



折り紙で共同制作・・・高校生たちと大きな作品を作りました。



## 実行委員会（高校生）の春休み企画振り返り



### これからに向けて

1. BASEがターゲットと考える子どもとのイメージを合致させる。
2. 各スタッフの担当を明確にする。
3. 責任者がいない日がないようにする。
4. 決まりを作る(例:走らない、大声を出さない、キッチンとラポには必要な時以外ははいるなど)
5. 宣伝は早めに始める。 |

### 【振り返り・感想】

今まで子ども達と触れ合うこともあまりなくクッキー作りという自分の好きな分野で子ども達と触れ合い楽しんでもらえたようでこちらまで楽しませていただきました。

反省点は子ども達と触れ合ったりそもそも料理教室などでの講師の経験が無く作っている途中でどういった事を言えばいいのかと迷ったことと元気な子がいたこともあり、もし自分一人だったなら手が回らなくなっていた可能性もあったことこれらの反省点を踏まえ一般的な料理教室などはどのような手順でどのようなことを話してやっているなどのことの下調べを深くやる必要があったと考えます。

(高校2年生 副実行委員長)

### よかった点

1. 少なからずBASEを知ってもらうきっかけになった。
2. 保護者から、こういった場所があるのは有難いと言われた。
3. 高校生と小中学生という、普段関わらない層が関わるのはいいことだった。
4. 大人にはできない雰囲気作りだった。
5. 伊那に素敵な所があると思わせられる企画だった。
6. 色々な意味で居場所を求める子どもがいると分かった。

### 悪かった点

1. 受け付けの混雑。
2. チラシ配布の範囲が限定的になったこと。
3. ターゲットをスタッフ内で共有できなかった。
4. 連絡が行き届かず来なかった子どもがいたと思われる。
5. スタッフ不足の日があった。
6. 混雑しすぎる時があった。
7. 複数の企画を同時に進めたので声が聞こえにくさらに大きな声を出さなくてはいけなかった。
8. 手洗いの徹底ができていなかった。
9. 騒がしくなりすぎた。
10. 子どもの時間(15時~18時)をスタッフ含め守れなかった。
11. 一般の利用者が入って来にくい雰囲気になってしまった。
12. コンシェルジュや子若担当ではなく、イベントの責任者(大人)がいない日があった。
13. 外に出てしまっって危ないこともあった。
14. マスクの徹底ができていなかった。
15. 落ち着いた場所とは言えなかった。

### 【振り返り・感想】

高校生と小中学生とか同じ空間で過ごすことはなかなかないと思います。今回は、たくさん子ども達がきてくれてその機会を作れたのでとても有意義でした。これからもユーススタッフとして、伊那まちBASE居場所のとしてのあり方を考えていければと思います。

(高校2年生 実行委員長)

4月

・4月30日、5月1日に「子どもの時間 GW 特別企画 プラレールで遊ぼう」を実施。外国籍の市民を含む参加者を募るため、日本語、英語、ポルトガル語のチラシを作成し、知人や図書館、子ども相談室などに配布すると同時に SNS で情報発信した。※添付参照

・両日の合計大人 62 名、子ども（幼児～小 5 年）73 名が参加した。その際、5月の「子どもの時間」に提供予定の活動が記載されたカレンダーを配布した。



5月

・ゴールデンウィーク明けの5月9日に、2人の子どもを連れて子どもの時間を見学に来たお父さんがあった。5月12日に3人の子どもを連れて子どもの時間の様子を見学に来られたお母さんがあった。18日は、学校がお休みということで伊那小の子どもたちが来てくれた。少しずつ地域に浸透してきたと実感するできごとだった。



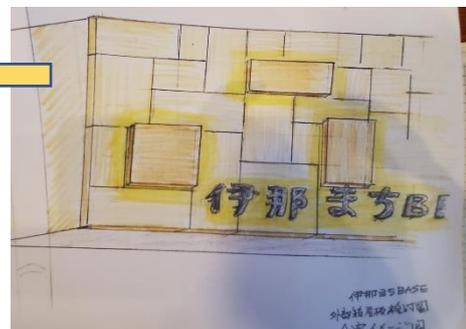
### 伊那まちバラフェスタ (5月29日)

2年間コロナにより中止になっていたイベントが開催された。この日は、カレー大作戦、演奏会、ファッションショーが開催され、地域の子どもたちも大勢参加して楽しい催しものとなった。



### 看板DIYワークショップ (5月30日)

伊那まちBASEの正面看板作りを高校生と一緒にDIYしました。



### 看板完成 (5月31日)



【参 照】

子ども・若者チーム コンシェルジュチーム、飲食チームが伊那まち BASE を持続可能な地域の居場所となるように、チームワークで事業を進めています。

## 伊那まち BASE のミッション

